

Simplex Institute

ショート・ストラングル

2026年10月21日

ショート・ストラングルとは

定義：同一限月の高い行使価格のコールと低い行使価格のプットの
　　同枚数の売り

狙い：「相場が広いボックス圏で推移する」という相場観のもとに
　　必要に応じてデルタをヘッジしながらタイム・ディケイを稼ぐ
　　例：9月限62500プット 1枚売りと 9月限67500コール1枚売り

結果：TDの減少による利益が基本
　　もし IVが低下すればそれからも利益を狙える

方法：相場の変動幅の読みが基本で, これに尽きる

※オプションの売りは、理論上損失は限定されないため、
　必要証拠金を上回る損失が発生することもあります

ショート・ストラングル実例（1）

コール売りとプット売りの両方から得られる大きなタイム・ディケイ（TD）を利益の源泉とする（そしてほとんど TDしか味方にならない）ポジション
コールとプットの売りによる 2つのネガティブ・ガンマになるので, もし IVが跳ね上がったら TDだけでは損失をカバーできない

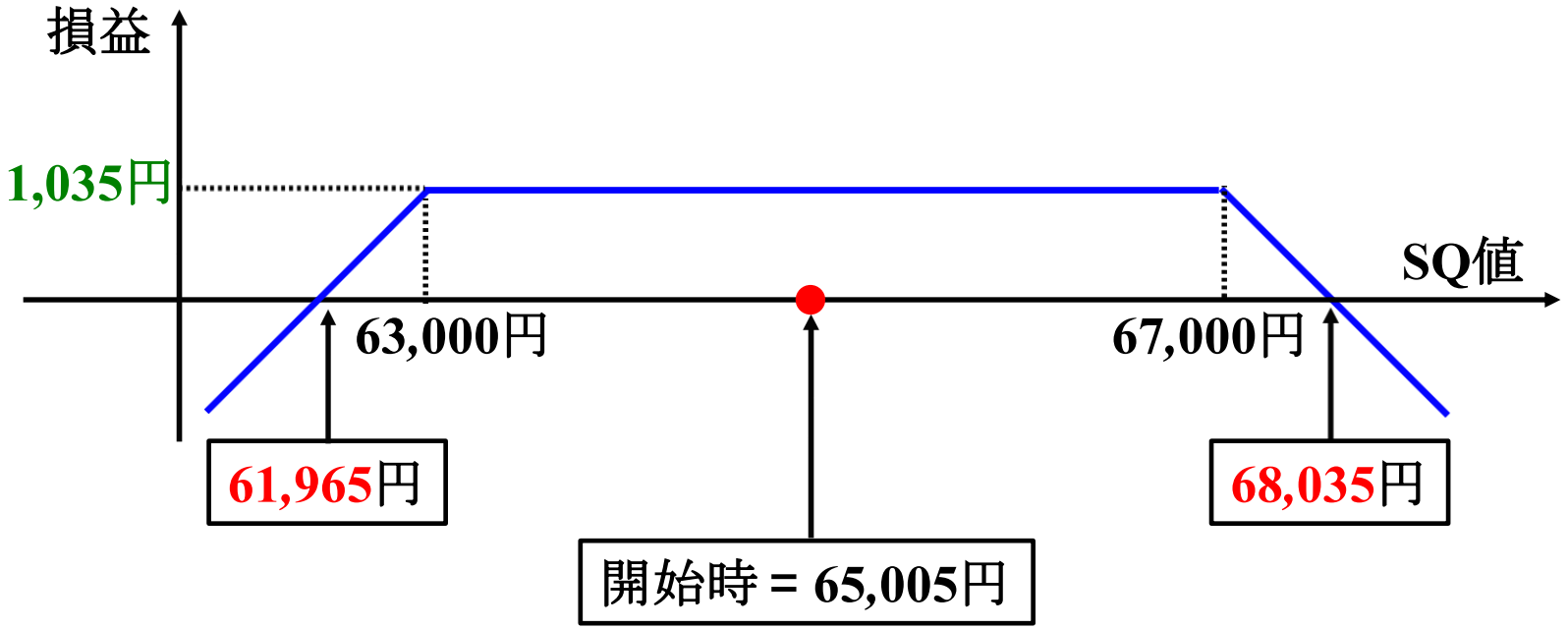
例：2026年 8月31日9時ごろ 9月限日経miniは 65,000円前後
　最近の相場は 63,000～67,000円のレンジでのもみ合い
　ATMの IVは 28%程度で安定的
　9月限 63000ミニプットを 555円で, 9月限 67000ミニコールを 480円で
　それぞれ 1枚ずつ売る（証拠金は 30万円程度）

注）安全性と収益とのバランスの見極めが大事

※オプションの売りは、理論上損失は限定されないため、
　必要証拠金を上回る損失が発生することもあります

ショート・ストラングル実例(2)

ショート・ストラングルの SQ損益図



ポジションを SQまで持ち続けるのであれば, やるべきことはほとんどない

ショート・ストラングル実例(3)

日付	9月限 日経mini	9月限63000ミニプット売り					9月限67000ミニコール売り					total Δ
		価格	IV	Δ	V	TD	価格	IV	Δ	V	TD	
8月31日	65,005	555	30.0%	0.26	-36.8	49.8	480	26.7%	-0.27	-37.1	45.6	-0.01
9月1日	66,160	230	28.7%	0.14	-24.5	36.2	730	25.2%	-0.39	-41.4	54.4	-0.25
9月2日	64,345	600	29.4%	0.31	-35.0	57.7	223	26.1%	-0.16	-23.8	34.6	0.15
9月3日	64,230	450	25.6%	0.29	-32.1	52.8	135	24.4%	-0.12	-18.9	30.1	0.17
9月4日	65,015	284	28.6%	0.20	-24.7	51.7	247	25.6%	-0.20	-24.7	47.3	0.00
9月7日	66,490	60	34.7%	0.06	-7.9	36.7	550	28.9%	-0.40	-26.0	101.6	-0.34
9月8日	65,190	173	38.9%	0.15	-13.1	93.7	248	38.1%	-0.21	-16.1	113.5	-0.06
9月9日	65,250	73	38.6%	0.09	-7.3	81.5	98	33.9%	-0.16	-10.9	120.9	-0.07
9月10日	65,170	14	40.9%	0.03	-2.0	56.4	35	41.4%	-0.05	-3.1	81.6	-0.02
SQ日	63,039.49	0	----	----	----	----	0	----	----	----	----	----

損益:

9月限 63000ミニプット損益 = (0 − 555) × (−1) × 100 = +55,500

9月限 67000コール損益 = (0 − 480) × (−1) × 100 = +48,000

合計:103,500円

※手数料等は考慮していません

上記は一例であり、損失が生じる場合もあります

ショート・ストラングルのコツと注意点

(1) 行使価格の選択：コールとプットの行使価格の差を大きくとれば
安全性は高くはなるが，収益性は低くなる
（差を 0円にすれば「ショート・ストラドル」になる）

(2) タイミング：ポジションを組むのは SQの 2～1週間前くらいがお勧め
（あくまで個人的な経験則）

(3) リスク・コントロール：コール売りによるネガティブ・ガンマとプット売りによる
ネガティブ・ガンマの合成ポジションなので，相場が荒れるとかなり難しい
デルタ・ヘッジを行うかどうかは自由だが，相場が損益分岐点に到達する
まではヘッジしないことが多い

付録:ボラティリティの話

ボラティリティとは

ボラティリティ（市場価格変動リスク）：収益率の「ブレ」

価格が変動するものであればすべて計測可能

ヒストリカル・ボラティリティ（**HV**）：

過去のある期間で計測されたボラティリティ

インプライド・ボラティリティ（**IV**）：

将来のある期間についての，市場参加者のボラティリティの合意

→ 市場でのオプション価格から逆算する

ヒストリカル・ボラティリティの計算

過去数日で終値が次のように変化したとする

1,000 → 982 → 960 → 993 → 1,009 → 1,017 → 1,003 → 990

(1) 日次収益率を計算すると

−1.80%, −2.24%, +3.44%, +1.61%, +0.79%, −1.38%, −1.30%

(2) これら日次収益率の標準偏差をとると **2.11%**

これを日次ボラティリティとよぶ

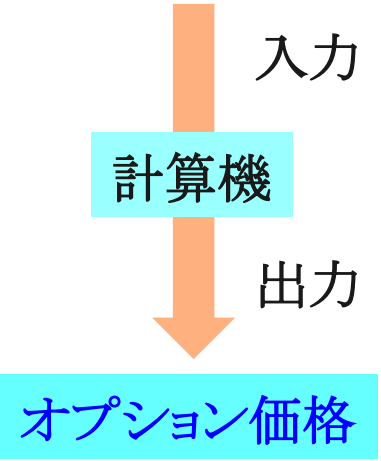
(3) 日次ボラティリティを **16**倍すると **2.11% × 16 = 33.76%**

これがこの期間のヒストリカル・ボラティリティである

インプライド・ボラティリティの計算

オプション価格の理論値の求め方

銘柄情報：満期日，行使価格
市場データ：金利，原資産価格，配当など
予想データ：満期日までの予想ボラティリティ

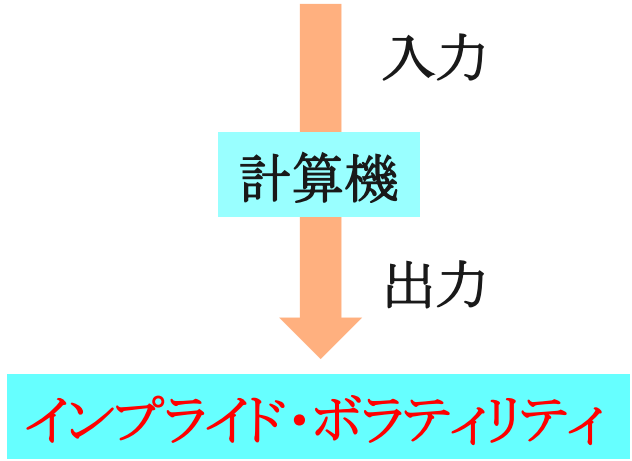


満期日までの予想ボラティリティからオプション価格を求める

インプライド・ボラティリティの計算（続）

インプライド・ボラティリティの求め方

銘柄情報：満期日，行使価格
市場データ：金利，原資産価格，配当など
売買データ：オプション市場価格



オプション市場価格からインプライド・ボラティリティを求める

IVの応用

応用例：期近 ATMオプションの IVが 28.00%（年率）

先物終値が 66,000円のとき，翌日の終値の範囲はどう予測されるか？

計算：IV = 28.00%から一日あたりのボラティリティ（日次ボラティリティ）は

28.00% ÷ 16 = 1.75%

先物終値 66,000円について 1.75%に相当する値幅は

66,000円 × 1.75% ≒ 1,155円

これにより，翌日の先物終値の範囲は次の通り

68%の確率で，66,000 ± 1,155円（64,845円 ～ 67,155円）

95%の確率で，66,000 ± 2,310円（63,690円 ～ 68,310円）

99%の確率で，66,000 ± 3,465円（62,535円 ～ 69,465円）

IVの特性

(1)オプション価格とIVとは同じ動き
　→「IVが高い」のは「オプションが割高である」ということ

(2)相場急落時はIVが大きくなる
　→ プットの買戻しがIVを引き上げる

(3)IVは急激に上昇するが下落するには時間がかかる
　→ 相場は急変するが落ち着くには時間が必要ということ

IVの変化が教えてくれること

(1) 相場急落の気配

市場参加者が相場急落を心配し始める

→ プットを積極的に買う

→ IVの上昇が始まる

(2) 相場急落の終わり

市場参加者が相場急落の終わりを感じ始める

→ プットを利食い始める

→ IVが下落する

さらなる勉強のために

大阪取引所から公開されているサイト

『OSE先物・オプション シミュレーター』

（ https://www.fopstudy.com/ ）

（1） 無料で先物・オプション取引を体験

（2） ゲーム感覚で楽しく学習

（3） 本格的な取引画面

（4） 解説動画付きで分かりやすい

参加者アンケート



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

講師プロフィール

伊藤祐輔（いとうゆうすけ）
株式会社シンプレクス・インスティテュート　代表取締役
1976年早稲田大学理工学部数学科卒業, 1983年同大学大学院理工学研究科後期課程修了．偏微分方程式論の研究活動のかたわら数学教育を続け, 1989年ソロモン・ブラザーズ・アジア証券（現シティグループ証券）に入社．株式部長, 株式デリバティブトレーダーとしてマーケットにかかわる. 1999年インドスエズ・ダブリュ・アイ・カー証券（現クレディ・アグリコル証券）に移りトレーディングデスクの再構築を行い, 2000年（株）シンプレクス・インスティテュート代表取締役就任.

免責事項
当資料の内容は，投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり，投資の勧誘を目的としたものではありません．
投資に関する最終的な決定は，ご自身の判断と責任においてなさるようにお願い致します．
株式会社シンプレクス・インスティテュートでは，当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても，一切の責任を負うものではありません．

無断転載を禁ず
当資料の全部，または一部を無断で複写・複製・転載，および磁気・光記録媒体に入力することなどは，著作権法上の例外を除き禁じられています．

株式会社シンプレクス・インスティテュート
〒105−6223　東京都港区愛宕 2−5−1
愛宕グリーンヒルズMORIタワー23階
URL：http://www.simplexinst.com

ご注意事項

•本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いします。万一、本資料に基づいてお客さまが損害を被ったとしても当社、および情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製、または販売等を行うことは固く禁じます。

•必要証拠金額は当社証拠金（発注済の注文等を加味した証拠金×**100%**）－ネット・オプション価値（**Net Option Value**）の総額となります。

•当社証拠金、およびネット・オプション価値（**Net Option Value**）の総額は発注・約定ごとに再計算されます。

•証拠金に対する掛け目は、指数・有価証券価格の変動状況などを考慮のうえ、与信管理の観点から、当社の独自の判断により一律、またはお客さまごとに変更することがあります。

•「**HYPER**先物コース」選択時の取引における建玉保有期限は原則新規建てしたセッションに限定されます。なお、各種設定においてセッション跨ぎ設定を「あり」とした場合には、プレクロージング開始時点の証拠金維持率（お客さま毎の証拠金掛目およびロスカット率設定に関わらず必要証拠金額は証拠金×**100%**で計算）が**100%**を上回っていれば、翌セッションに建玉を持ち越せます。「**HYPER**先物コース」選択時は必要証拠金額は証拠金×**50%**～**90%**の範囲で任意に設定が可能であり、また、自動的に決済を行う「ロスカット」機能が働く取引となります。

•先物・オプションの証拠金については日本証券クリアリング機構の**WEB**サイトをご覧ください。

•指数先物の価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。市場価格が予想とは反対の方向に変化したときには、比較的短期間のうちに証拠金の大部分、またはそのすべてを失うこともあります。その損失は証拠金の額だけに限定されません。また、指数先物取引は、少額の証拠金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失を被る危険性を有しています。

•日経平均**VI**先物取引は、一般的な先物取引のリスクに加え、以下のような日経平均VIの変動の特性上、日経平均**VI**先物取引の売方には特有のリスクが存在し、その損失は株価指数先物取引と比較して非常に大きくなる可能性があります。資産・経験が十分でないお客さまが日経平均VI先物取引を行う際には、売建てを避けてください。

ご注意事項

- 日経平均VIは、相場の下落時に急上昇するという特徴があります。
- 日経平均VIは、急上昇した後に数値が一定のレンジ（20～30程度）に回帰するという特徴を持っています。
日経平均VIは、短期間で急激に数値が変動するため、リアルタイムで価格情報を入手できない環境での取引は推奨されません。
- 指数オプションの価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。なお、オプションを行使できる期間には制限がありますので留意が必要です。買方が期日までに権利行使又は転売を行わない場合には、権利は消滅します。この場合、買方は投資資金の全額を失うことになります。売方は、市場価格が予想とは反対の方向に変化したときの損失が限定されていません。また、指数オプション取引は、市場価格が現実の指数に応じて変動しますので、その変動率は現実の指数に比べて大きくなる傾向があり、場合によっては大きな損失を被る危険性を有しています。
- 未成年口座のお客さまは先物・オプション取引口座の開設は受付いたしておりません。
- 「J-NETクロス取引」で取引所 立会市場の最良気配と同値でマッチングする場合、本サービスをご利用いただくお客さまには金銭的利益は生じないものの、SBI証券は委託手数料を機関投資家から受け取ります。
- J-NETクロス取引の詳細は適宜修正される可能性がありますのでご留意ください。

金融商品取引法等に係る表示

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。これらの商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります（信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所**CFD**（くりっく株**365**）、店頭**CFD**取引（**SBI CFD**）では差し入れた保証金・証拠金（元本）を上回る損失が生じるおそれがあります）。商品毎に手数料等及びリスクは異なりますので、詳細につきましては、**SBI** 証券**WEB** サイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。

金融商品取引法等に係る表示
https://search.sbisec.co.jp/v2/popwin/info/home/pop6040_torihikihou.html

商号等：株式会社**SBI**証券　（金融商品取引業者、商品先物取引業者）

登録番号：関東財務局長（金商）第**44**号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人 日本**STO**協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人日本暗号資産等取引業協会